

阿づまの光

A Z U M A N O H I K A R I

信仰の徹底したる人なれば

いかなる逆境も切りぬけてゆく

【尊師 出口日出磨】



教主さまお作 灰釉茶盃 「かぎろひ」

阿騎の野土／宇陀（松＋桜＋カリン＋樫）釉

信仰者としての光

茨城主会長 渡邊 弘子

10月26日、大本東京本部を会場に、大本茨城主会合同慰霊祭に合わせ第27回信徒大会を開催いたしました。大本本部から大道場講師の串崎哲先生をお迎えして、記念講話を聞かせていただきました。講話は「み教えに導かれて」本部奉仕50年から学んだこと」でした。ご自身の半生を軸に語られる講話は大変新鮮で、その内容は次の4項目にまとめられていました。

- (1) 人生に無駄は一つもない（どんなことにも真正面から向き合う）
- (2) ご守護は動いてこそ頂ける（じっとしてはご守護はない）
- (3) 逆「四大綱領」で歩む人生（造↓慣↓教↓祭）
- (4) 信仰とは「護られている」という確かな安心感（一切「惟神」）

正に「目から鱗」でした。とかく信仰やみ教えは難しく考えてしまいがちですが、詰まるところ信仰は人生そのものであるとのこと。自分自身の確立を経る中で、信仰者同士またあらゆる社会の周りの方たちと交わり、絆を深めていくことが最も大切であると確信いたしました。また、(2)の項目で「じっとしてはご守護はない」とまで言われた本質は「考えたことは必ず実行する」ことだと思えます。現在、主会の運営は財政的に厳しい状況にありますが、これは全国的にも共通する状況と察します。それを乗り切るために、主会としては一人一人の絆、分所・支部同士の助け合いがどうしても必要です。それを生み出す力の源泉が、今回教えていただいた4項目の教えだと思えます。ご教示を実践し、この現状を必ず乗り切っていくと思います。

また、講話の最後には聖師さまの次のお歌が紹介されました。「朝夕に汗して働くなりはひの中にこもれる宗教のひかり」(『大本の道』)

人は人生を歩む中で、人としてできる限りの努力を行う日々の中に、信仰者としての「光るもの」が出てくるものと思います。人生、信仰における羅針盤をいただいた一日でした。「感謝」いたします。



東光苑秋季大祭・新穀感謝祭・七五三詣りは11月9日午前10時30分から、斎主・出口眞人氏のもと執行され、230人が参拝したⅡ写真①・②。

祭員は各主会祭務部長らが、少年祭員は小谷香澄さん、伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読は高野富輝夫埼玉主会、長が担当。東光庵では、添釜がかけられ、高野社中が担当した。祭典では信徒有志からの五穀や野菜の献納品もお供えされ、お下がりとして参拝者に下付された。祭典後、能舞台では二絃の会関東支部による八雲琴『高倉山』が奉納**写真④**。続いて、七五三詣りのお子さま3人に橋本伸作東京センター長から千歳館とお菓子が贈られた**写真右下**。その後、少年祭員を紹介。

引き続き橋本東京宣教センター長があいさつ。続いて出口眞人氏による記念講話が行われた。出口氏は講話で、大本の教えを知りたいと思う一般の人の聖地参拝が増えていることや、大本の教えと同



じことを世に広める活動をする人について紹介し、世にそうした人が表に出てくるほど、大本の教えに気がつく人が増え、世の中もよくなってくるのではないかと自身の所感を語った**写真③**。

また、直会后、2階講座室で第4回東光苑ミニ講話が行われ、長友智NP〇法人人類愛善会インターナショナル理事による講話「愛善エネルギーの探訪」が行われた**写真⑤**。

なお、1階ロビーでは直心会茨城・東京連合会による日用品バザー、『心と体をはぐくむ正食手帖』の販売が、直会時には3階ラウンジで青少年部による南米青年訪日支援バザー、青松会による味噌汁バザーが催された**写真⑥**。



お菓子を受け取る七五三詣りのお子さま



お菓子を受け取る七五三詣りのお子さま

1月25日(日) 19:00～

～万物のはじまり、お土の力～

講師：橋本 伸作（東京宣教センター長）




人間をはじめ万物は、火と水、大地の恩恵を受けて生かされています。その源をたどれば、すべては火と水、そして土へと行き着きます。生命の原点を見つめながら、大地の恵みとその力について学びたいと思います。

大本東京本部ホームページをご覧ください！

家庭平安祈願祭（第34回）は、10月25日午前10時30分から斎主・椎野恭三祭務課長のもと執行され、28人が参拝した。

祭典では、齋主と祭員が全国から申し込まれた338件の氏名を全て読み上げ、家庭の平安と繁栄を祈願した。祭典後、橋本伸作東京宣教センター長があいさつを述べた。



なお、全国から申し込まれた家庭平安の祈願は祭典後1週間、東光苑ご神前で継続された。



毎年1月7日は「^{じんじつ}人日の節句」と呼ばれ、古来より日本では無益息災と長寿を願い、春の七草の入った七草粥が食されてきました。

東京本部では、令和8年も七草粥を振る舞いいたします。
皆さまのご来苑を心よりお待ちしております。

日程 令和8年1月7日(水)
午前10時半～午後2時

会場 大本東京本部



1日(木) 午前7時～
新年祭

1日、3日（木、土） 各日9時30分～

年賀

7日(水) 午前10時30分～

東光苑七草粥

11日(日) 午前10時30分～

東光苑月次祭・成人式式典

合格祈願祭（14時）

19日(月) 午前10時30分～

聖師每年祭（78年）

25日(日) 午後7時〜

東光苑オンライン講座（配信）

講題 月日と土の恩

万物のはじまり、

講師 橋本 伸作（東京宣教センター長）